



# マクロ経済学A

---

## 第5回 財市場の総需要



# この授業の内容

---

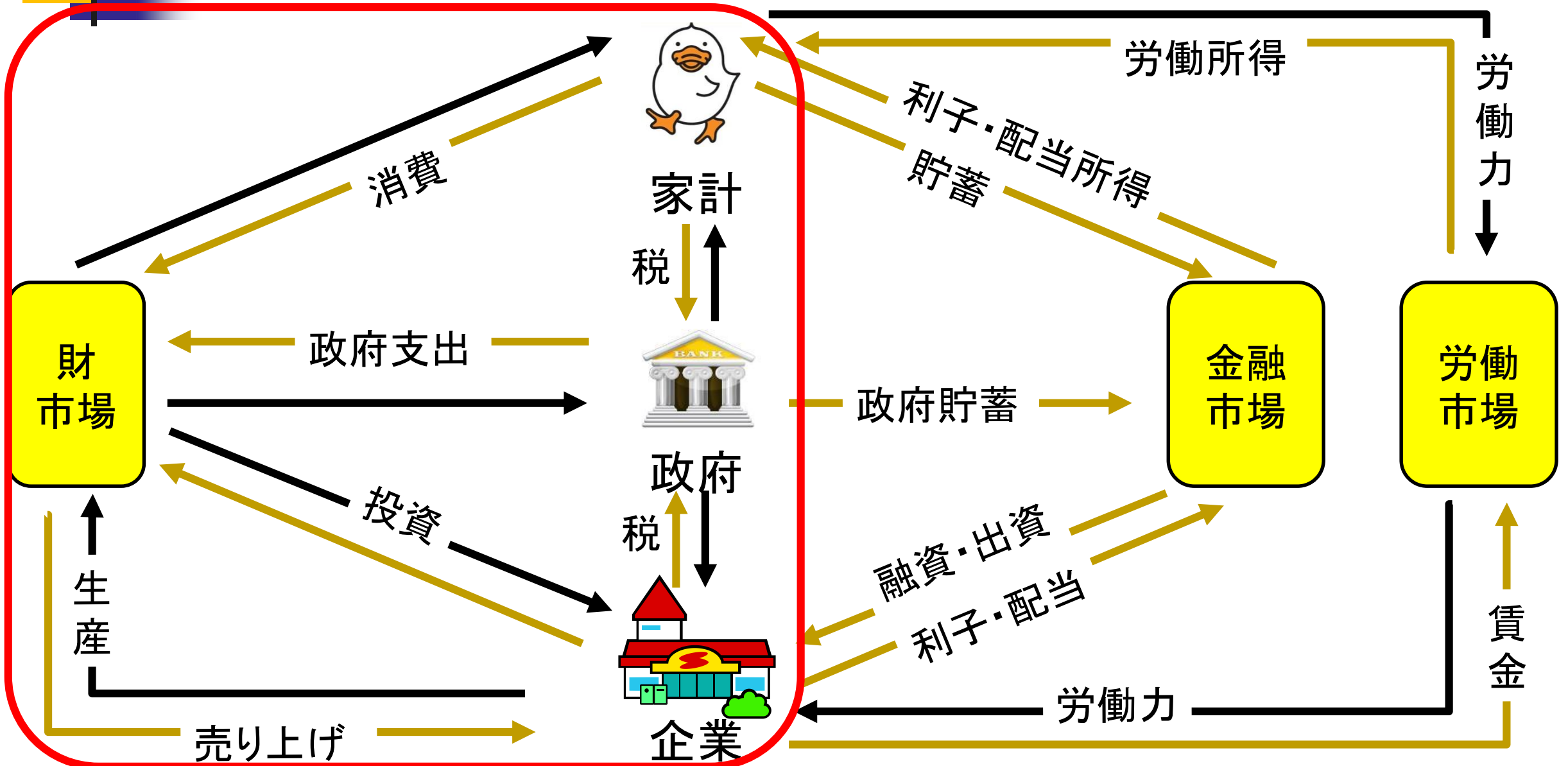
- ① 財市場の需要と供給
- ② 新古典派とケインジアンの方考え方
- ③ 財市場の総需要曲線



## ① 財市場の需要と供給

---

# 経済主体と市場の関わり





# 財市場の需要と供給

---

## 財市場における需要

消費，投資，政府支出，海外との貿易

- ▶ 需要サイドの政策

財政支出や減税，金融緩和等

## 財市場における供給

資本，労働，土地，技術など

- ▶ 供給サイドの政策

規制緩和や技術革新支援など



# GDPの決まり方

---

## 供給サイドから見るGDP

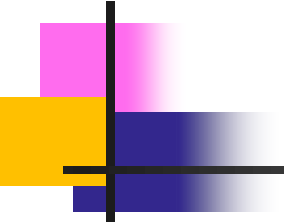
生産がどれほど行われるか

- 資本、労働などの生産要素がどれほどあるか
- 技術水準がどのくらい高いか

## 需要サイドから見るGDP

消費、投資、政府支出、輸出がどのような動きをするか

- 消費は所得の大きさや雇用に影響を受ける
- 投資は企業の将来の見通しや資金を借りる際の利子率が関係
- 政府支出は政策的に決まってくる
- 輸出は海外の景気動向や為替レートなどが影響



# 供給サイドから見るGDP

---

## 成長方程式

### 潜在的な成長率を求める式

- ▶ 生産要素の分配率に増加率を掛けたものを足し合わせたもの

例) 生産要素が労働と資本だけの場合

$$\begin{aligned} \text{経済成長率} &= \text{労働分配率} \times \text{労働の増加率} \\ &\quad + \text{資本の分配率} \times \text{資本の増加率} \end{aligned}$$



## 2022年の国民所得（NI）

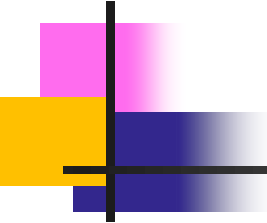
	金額(10億円)	構成比
国民所得	408,953.8	100.0%
雇用者所得	296,381.8	72.5%
財産所得	30,325.8	7.4%
企業所得	82,246.2	20.1%

例) 労働の増加率が1%、資本の増加率が4%とすると

$$\begin{aligned}\text{経済成長率} &= 0.725 \times 0.01 + (0.074 + 0.201) \times 0.04 \\ &= 0.01825\end{aligned}$$

日本経済の潜在成長率は1.8%





# 需要サイドから見るGDP

---

需要サイドの項目

消費，投資，政府支出，純輸出

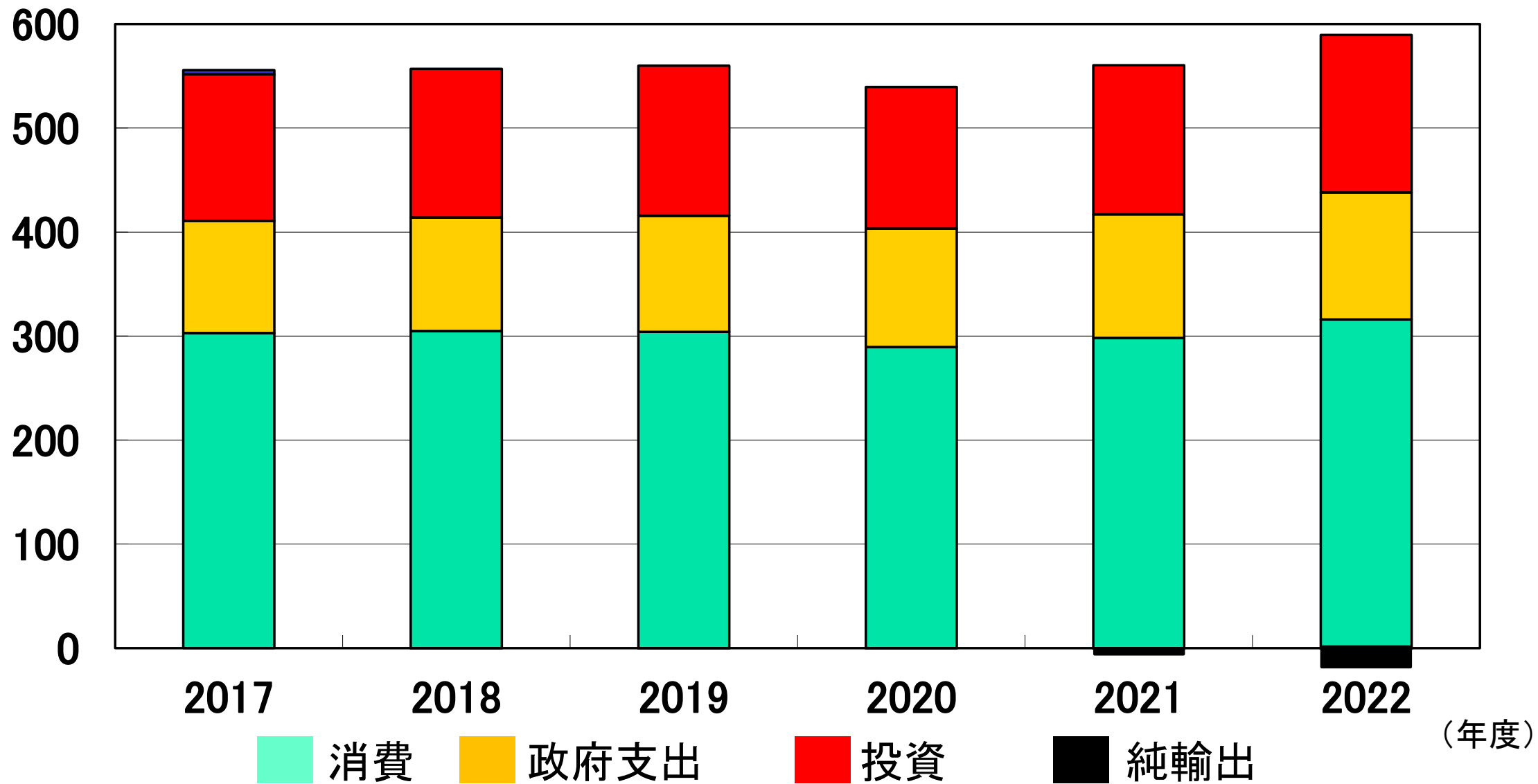
需要サイドからみた経済成長率

経済成長率	=	消費シェア	×	消費の増加率
		+ 投資シェア	×	投資の増加率
		+ 政府支出シェア	×	政府支出の増加率
		+ 純輸出シェア	×	純輸出の増加率

個々の需要項目のシェアにその増加率を書けたものを、  
その項目の経済成長への寄与度という

# 総需要の構成

(兆円)





## ② 新古典派とケインジアンの方

---



# どちらがマクロ経済の動きを決めるか

---

## 供給サイド

短時間でその状況が大きく変化することが少ない

→ 長期的な動きをみる分野

▶ 新古典派の考え方

## 需要サイド

短期的に大きく変動したり，一定期間で波打ったりする

→ 短期的な動きをみる分野

▶ ケインズ学派の考え方

# 新古典派の考え方（イメージ）

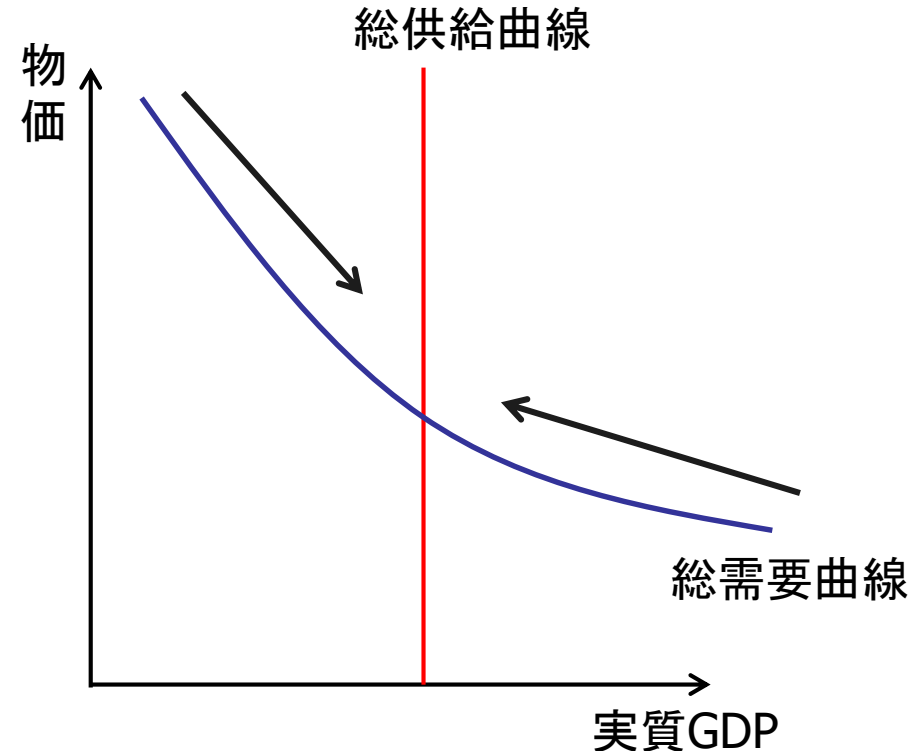
## 新古典派の考え方

### 供給が需要を決める

- 供給は短期的には変化せず、物価とも無関係
- 需要は物価によって変動

超過供給であれば物価が下落で総需要増

超過需要であれば物価が上昇で総需要減

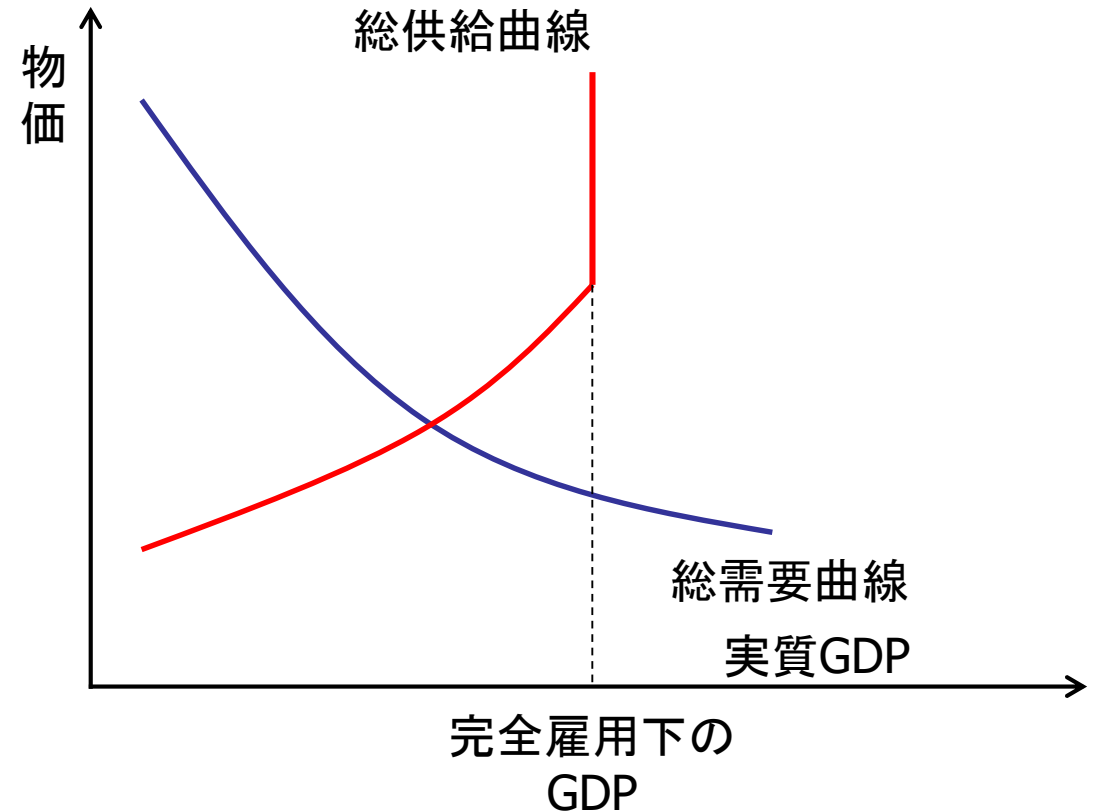


# ケインジアン的な世界（イメージ）

## ケインジアンの方

賃金などの調整力が弱いため完全雇用が実現しない

- 消費や投資が落ち込む  
と、賃金の調整が弱い  
ため企業の生産が下がる  
→ 失業  
したがって 需要を増やす  
ような政策が必要となる





### ③ 財市場の総需要曲線

---



# 財市場の総需要

---

総需要 ( $Y_D$ )

その国で生産された財・サービスに対する需要

生産された財は需要され，購入 (= 支出) される

支出面でのGDP (GDE)

生産された財・サービスを購入する主体は次の4つ

- 家計：消費(C)を行う
- 企業：投資(I)を行う
- 政府：政府支出(G)を行う
- 海外：純輸出(NX)を行う

$$Y_D = C + I + G + NX$$





# ケインズ型消費関数

---

## ケインズ型消費関数の基本的な考え方

消費は現在の所得水準に依存して決まる

$$C = C_0 + cY$$

基礎消費  $C_0$

↳ 所得（ $Y$ ）が0であっても、生きていくうえで必要な金額

限界消費性向  $c$  ( $0 < c < 1$ )

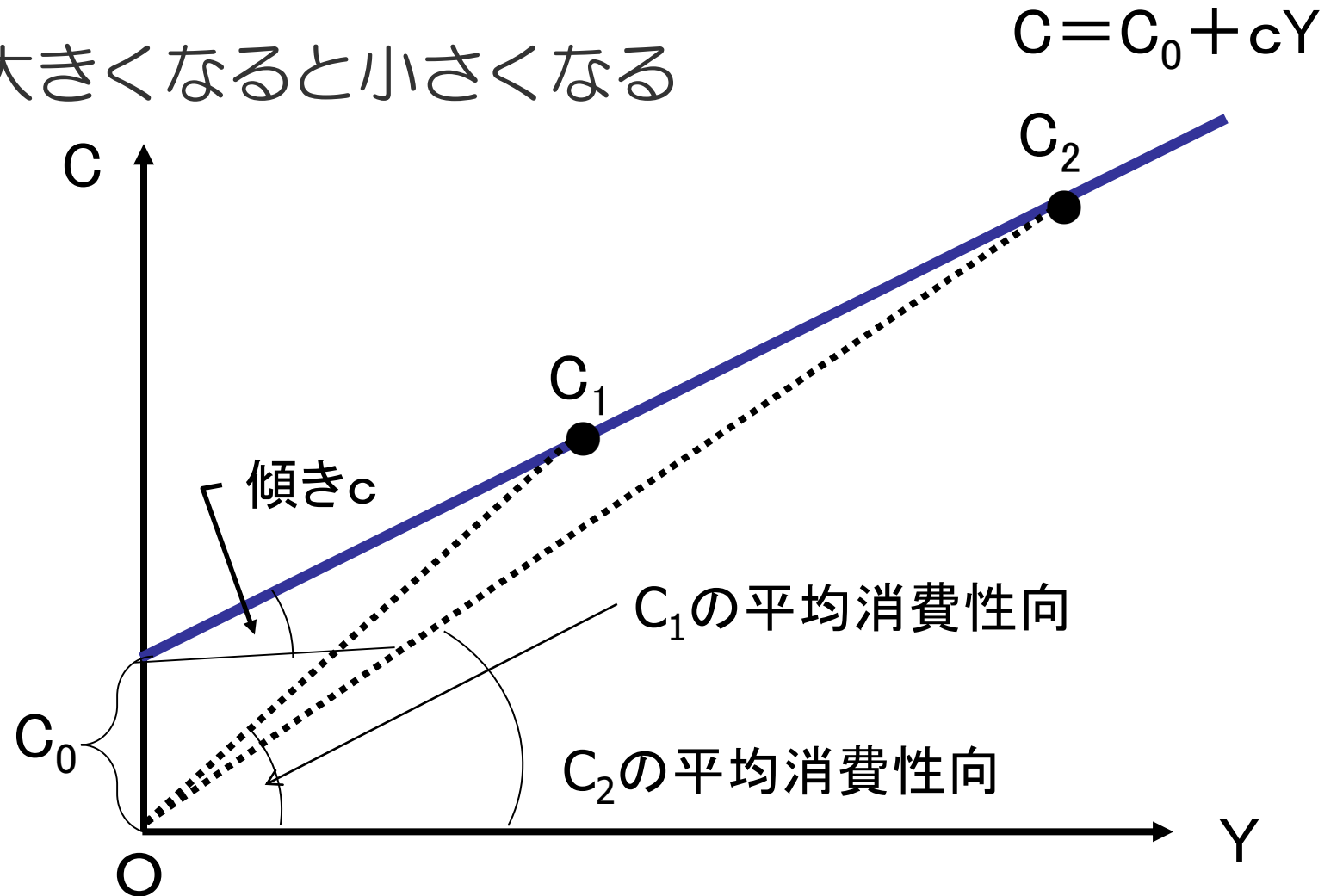
↳ 所得（ $Y$ ）が1単位増加した時の、消費の増加分

平均消費性向  $C/Y$

↳ 所得（ $Y$ ）あたり平均してどれだけ消費したかを表す

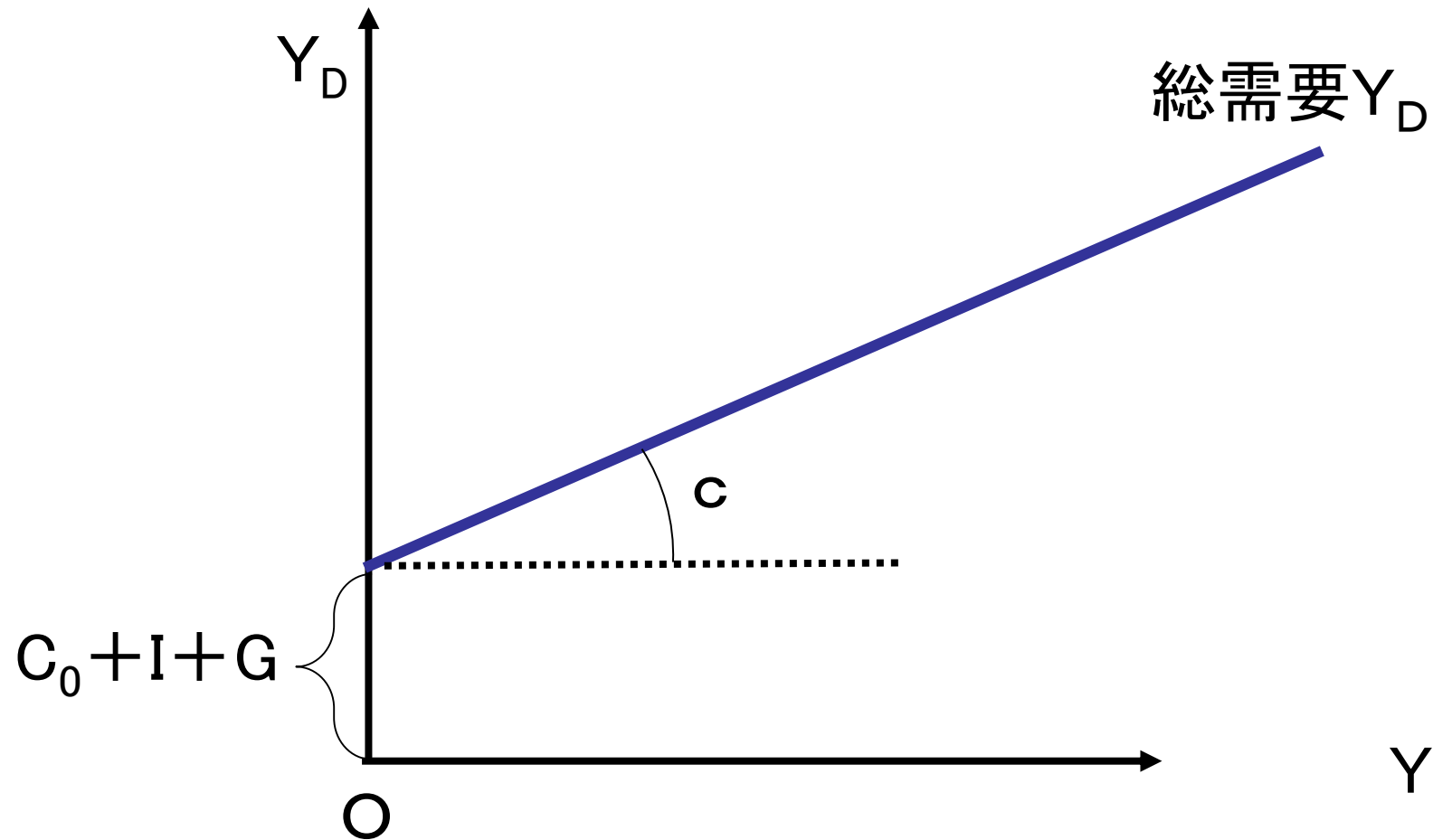
# ケインズ型消費関数（図）

- 限界消費性向は一定
- 平均消費性向は所得が大きくなると小さくなる



# 総需要曲線

$$\text{総需要} = C_0 + cY + I + G \quad (NX=0 \text{ とする})$$





# この授業で学んだこと

---

財市場の需要と供給

経済成長率

新古典派とケインジアンの方

短期と長期

財市場の総需要曲線

消費関数、限界消費性向